

海にうどんが埋まっている？

～ツバサゴカイ属の棲管せいかん～

平成 25 年 3 月香川県三豊地区の漁業者との会議の席で、「12 月に戦車こぎ網（小型底びき網漁業 手繰第 3 種）が始まってから、うどんみたいなゴカイの巣がたくさん網に入るようになったが、あれはいったい何なんやろか？」という話がありました。ひうちなだ 燧灘の漁場（水深約 20m の泥場）で冬に例年獲れるそうですが、この冬は特に多いようです。数日後、漁業者に現物を獲って頂き、試験場で正体を調べました。

うどんみたいなものは、長さ 30～40cm の多毛類（ゴカイやイソメなどの仲間）が棲むせいかん 棲管でした。棲管の周りについている泥をたわしで除くと、白い表面が現れ、まさにうどん（きしめんに近い？）のようでした。そして、棲管の主の顔を見ると、これまでお目にかかったことのない形の多毛類が出てきました（次ページ 写真）。

棲管の主は、体の前のほうに大きな翼状の背足枝はいそくしがあることが決め手となり、多毛類のツバサゴカイ属の一種（*Chaetopterus* sp.）と分かりました。日本にはツバサゴカイ属は 9 種が知られていますが、外部形態だけでは区別が難しく、専門家でない私は種の査定はできませんでした。ただし、これまでの本属の分布域の報告や虫体の全長が 12～15cm 程度であったことから、ツバサゴカイ *C. cautus* の可能性が高いと思っています。

ツバサゴカイ *C. cautus* の生態の一部をご紹介しますと、潮間帯から水深 10m ほどの砂泥底や砂礫底に分布しています。棲管の全体像は U 字状で両端の口部のみが底泥上に出て、それ以外の大部分は底泥下に埋まっています。棲管の外側には貝殻や海藻、砂粒などが多く付着し、棲管の内側にはウロコムシ科の多毛類やオオヨコナガピンノなどが共生しています。

近年、マコガレイやイシガレイなどのカレイ類の漁獲量が減少しています。多毛類であるツバサゴカイが餌となり、カレイ類が増えることを期待したいものです。

【参考資料】

無脊椎動物図鑑・環形動物門：<http://www.rimi.or.jp/dobutumenu/FTAMO.html>

西 英二郎：日本産ツバサゴカイ科多毛類の分類について．2002：うみうし通信 34，2-3．

西 英二郎：干潟の普通種ツバサゴカイに忍び寄る危機．2002：タクサ 12，8-17．

内海富士夫（監修）：学研生物図鑑水生動物（改訂第 4 刷）．1996：学習研究社，84．

スピオ目ツバサゴカイ科ツバサゴカイ属：
平成 25 年 3 月 観音寺漁協の小型底びき網で採集



(文責 山本昌幸)